

セイヨウカラシナ (西洋芥子菜)

名前の意味^{いみ}：西洋からやってきたカラシナの意味。カラシナは茎^{くき}や葉^{から}に辛みがあるから。

分類：双子葉類、アブラナ科、アブラナ属

(アブラナ科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：アブラナ、ダイコン、ワサビ、カブ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、空き地

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：ヨーロッパ

特徴：菜の花そのものの花。辛^{から}みのある少し切れ込んだ葉。

種子の運ばれかた：果実が種子をはじき飛ばす

花弁の数^{りべん}：離弁、4枚

花の時期：4—5月

食べ方：若い葉は塩ゆでするとおひたしで食べられる

見分け方：アブラナやカブなどもよく似ているが野生化しない。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)